

緩和医療学講義

山蔭 道明

札幌医科大学医学部麻酔科学講座 教授

札幌医科大学緩和医療学寄付講座 兼任教授

外科学

蘇生

救急

麻醉科学

緩和
医療


集中
治療

ペイン
クリニック





CONTENTS

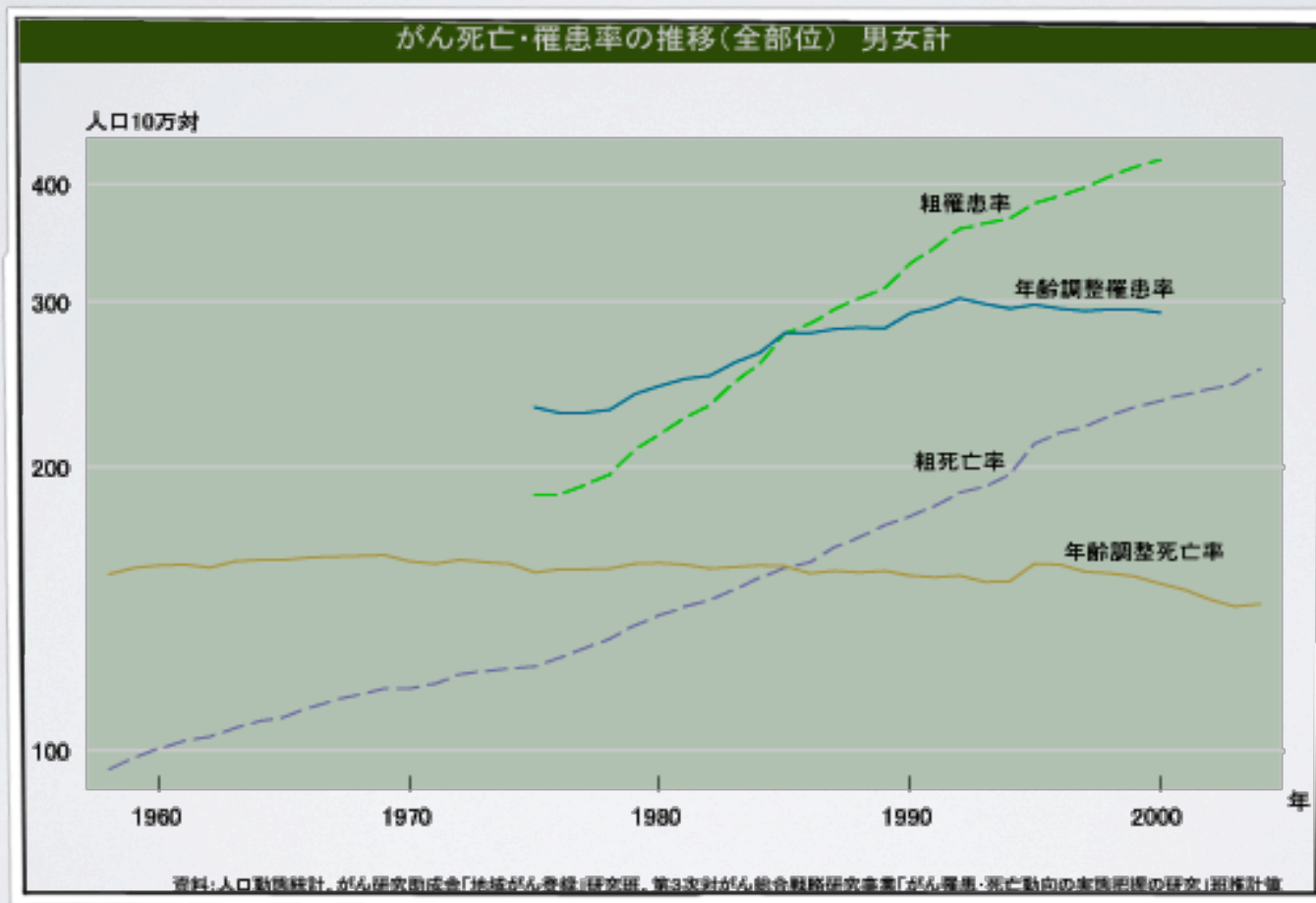
 **わが国でのがん罹患率・死亡率の現状**

 **新しいがん診療体制の構築**

 **緩和ケア診療体制**

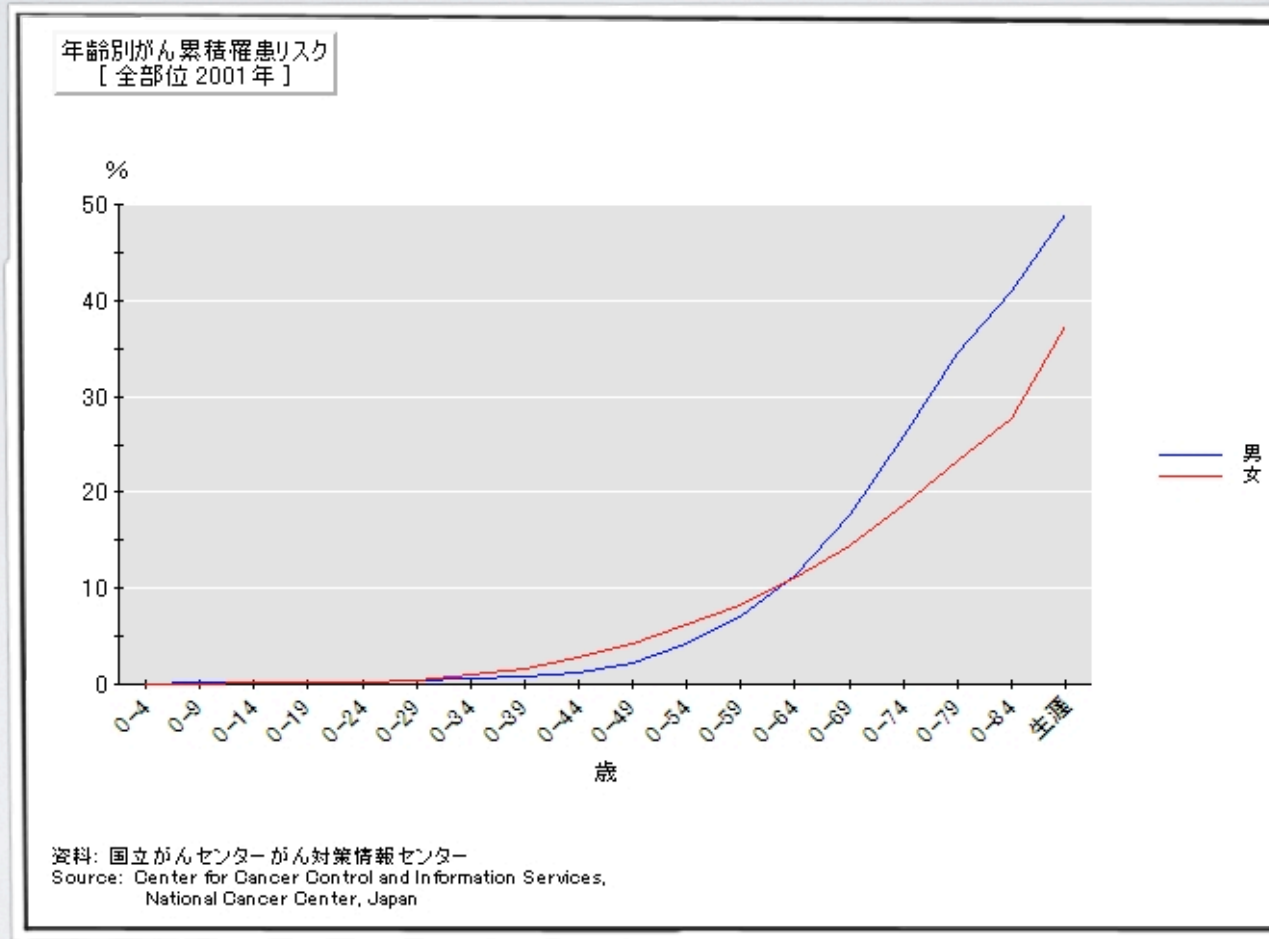
 **新しいがん医療教育体制**

がん死亡・罹患率の推移 (全部位) 男女計

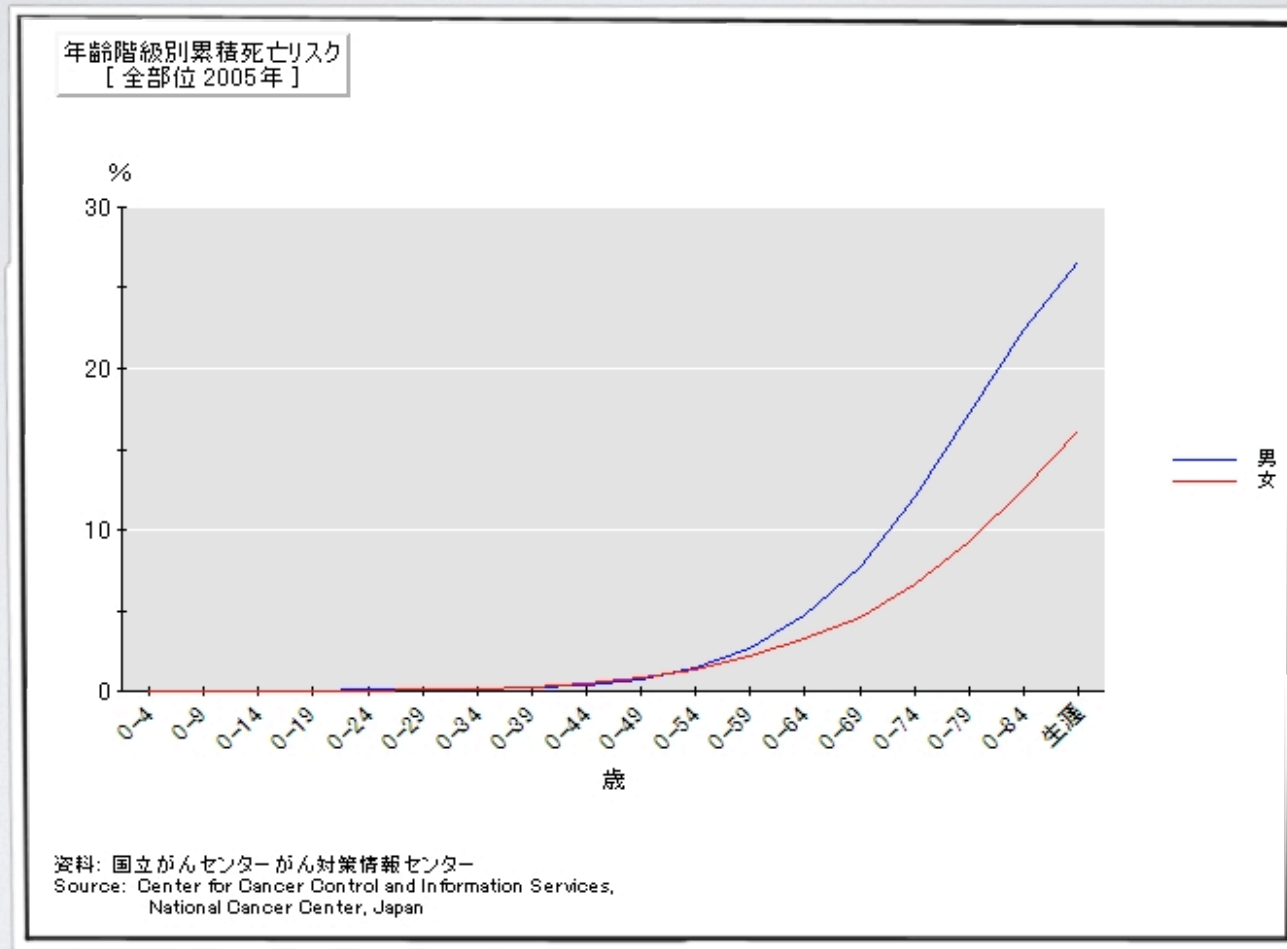


資料:「人口動態統計」(国推計値)「がん研究会編「地域がん登録」研究班,第3次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握の研究」(国推計値)

2人に1人は“がん”に罹患する

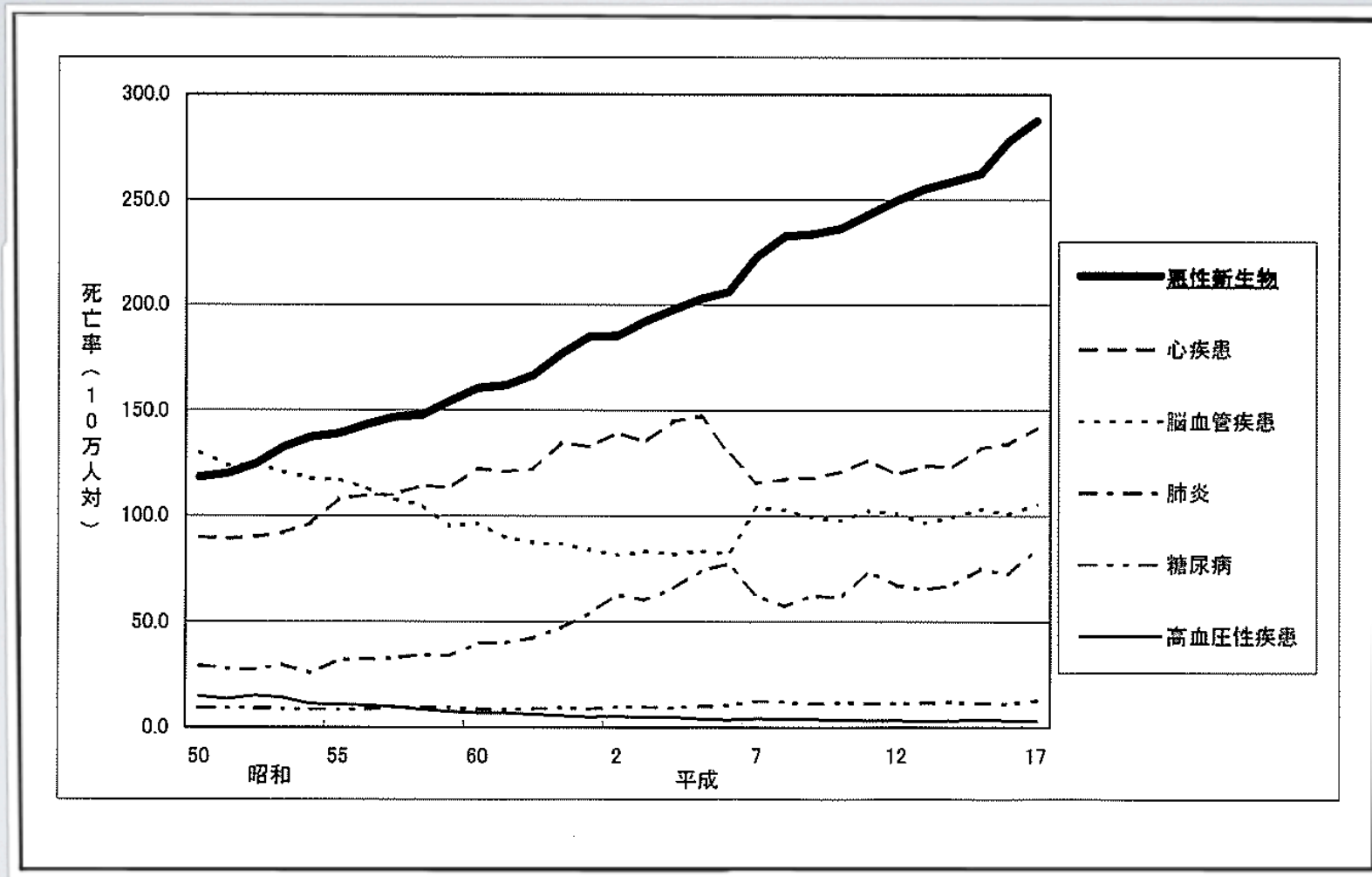


3人に1人は“がん”で亡くなる



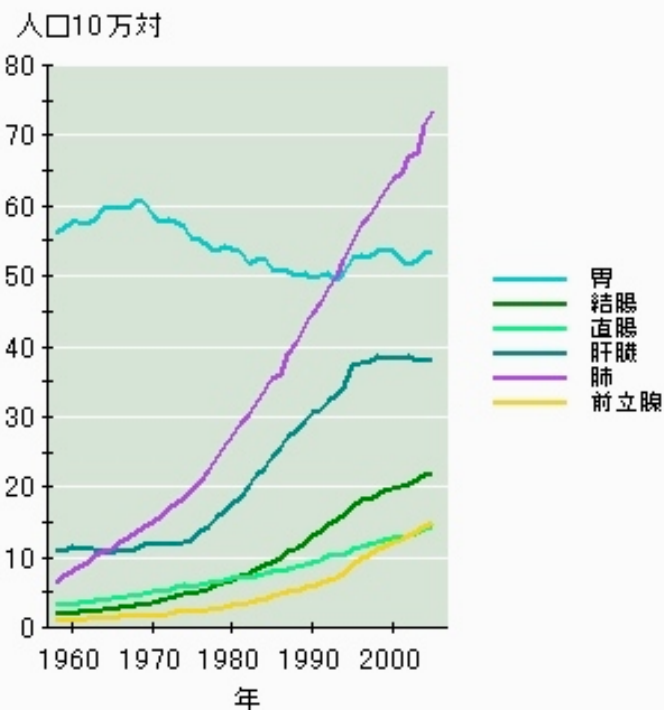
資料: 国立がんセンターがん対策情報センター
Source: Center for Cancer Control and Information Services,
National Cancer Center, Japan

北海道でも3人に1人はがんで亡くなる



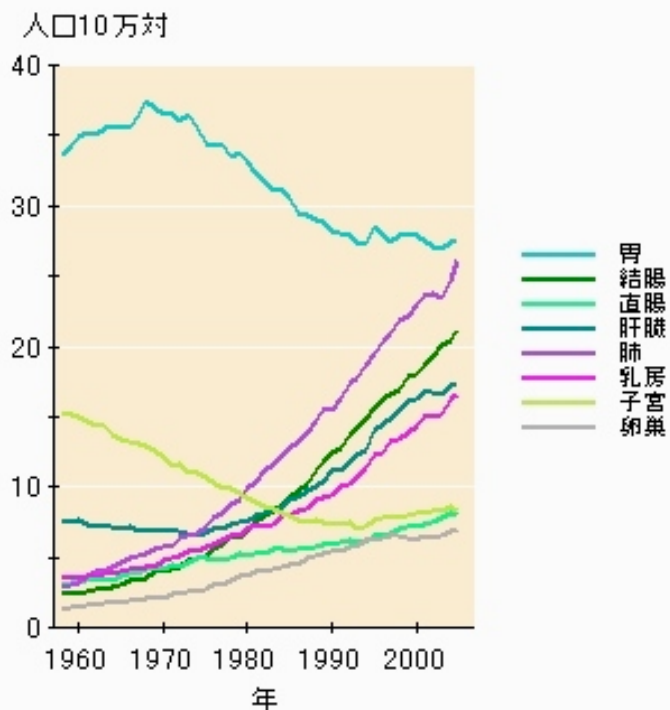
男女別 部位別がん粗死亡率の推移

部位別がん粗死亡率の推移
(主要部位)
[男 1958年~2005年]




資料: 国立がんセンターがん対策情報センター
Source: Center for Cancer Control and Information Services,
National Cancer Center, Japan

部位別がん粗死亡率の推移
(主要部位)
[女 1958年~2005年]



資料: 国立がんセンターがん対策情報センター
Source: Center for Cancer Control and Information Services,
National Cancer Center, Japan

CONTENTS

 わが国でのがん罹患率・死亡率の現状

 **新しいがん診療体制の構築**

 緩和ケア診療体制

 新しいがん医療教育体制

日本のがん医療に対する体制

－ 対がん10か年総合戦略 －

第1次対がん10か年総合戦略（1984年～）

～対がん10か年総合戦略～

第2次対がん10か年総合戦略（1994年～）

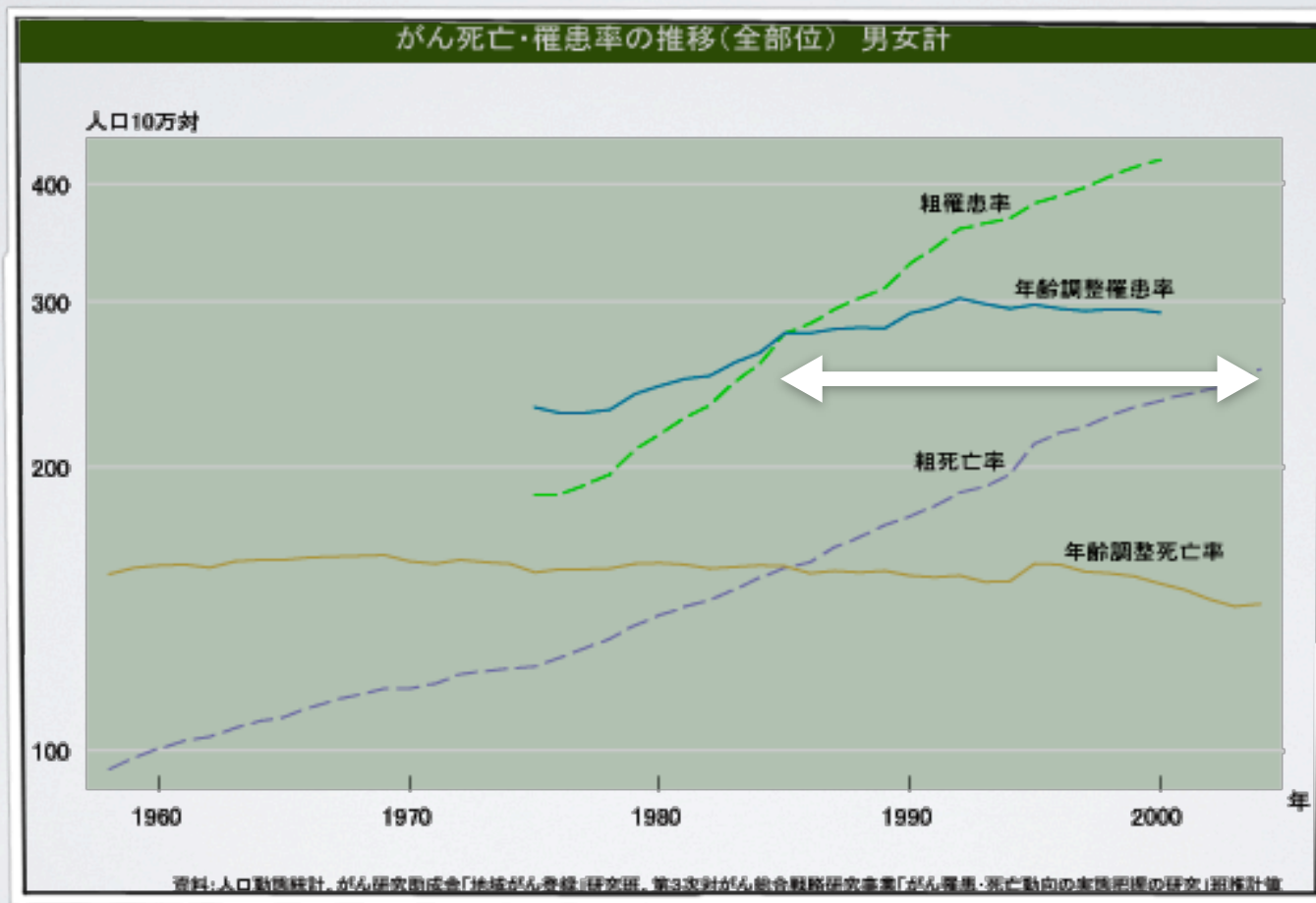
～がん克服新10か年戦略～



遺伝子レベルでの病態の理解

早期発見法の確立，標準的な治療法の確立

がん死亡・罹患率の推移 (全部位) 男女計



資料:「人口動態統計」(国推計値)「がん研究助成会」(国推計値)「地域がん登録」研究班,第3次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握の研究」(国推計値)

1890

1910

1930

1950

1970

年

第3次対がん10か年総合戦略（2004年～）

～がんの罹患率と死亡率の激減を目指して～



がん研究の推進



がん予防の推進



がん医療の向上とそれを支える社会環境の整備



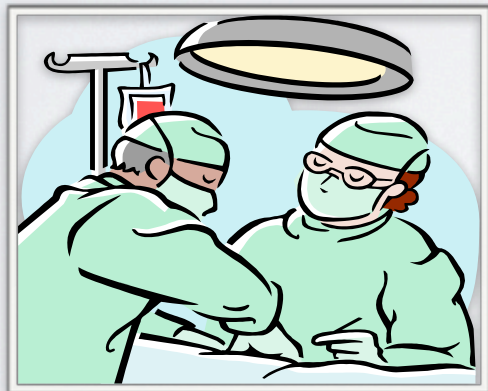
緩和医療

がん患者

がん病変



治療



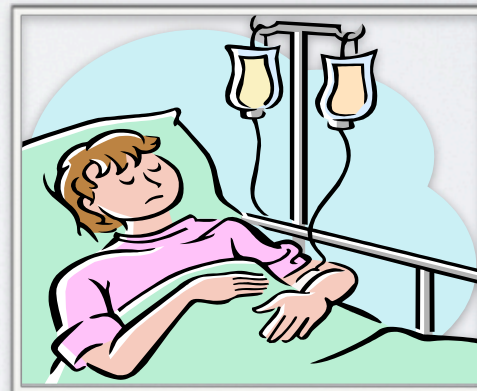
(外科的治療, 化学療法, 放射線療法)

苦痛

身体的苦痛
心理・精神的苦痛



症状の緩和



(緩和ケア)

化学療法の進歩

A群：治癒を期待できる

急性骨髄性白血病，急性リンパ性白血病，ホジキン病，非ホジキンリンパ腫（中・高悪性度），胚細胞腫瘍，絨毛がん

（奏効率80%以上）

B群：延命が期待できる

乳がん，卵巣がん，小細胞肺がん，多発性骨髄腫，非ホジキンリンパ腫（低悪性度），慢性骨髄性白血病，骨肉腫，大腸がん

（奏効率60～80%）

D群：効果の期待が少ない

悪性黒色腫，肝がん，甲状腺がん

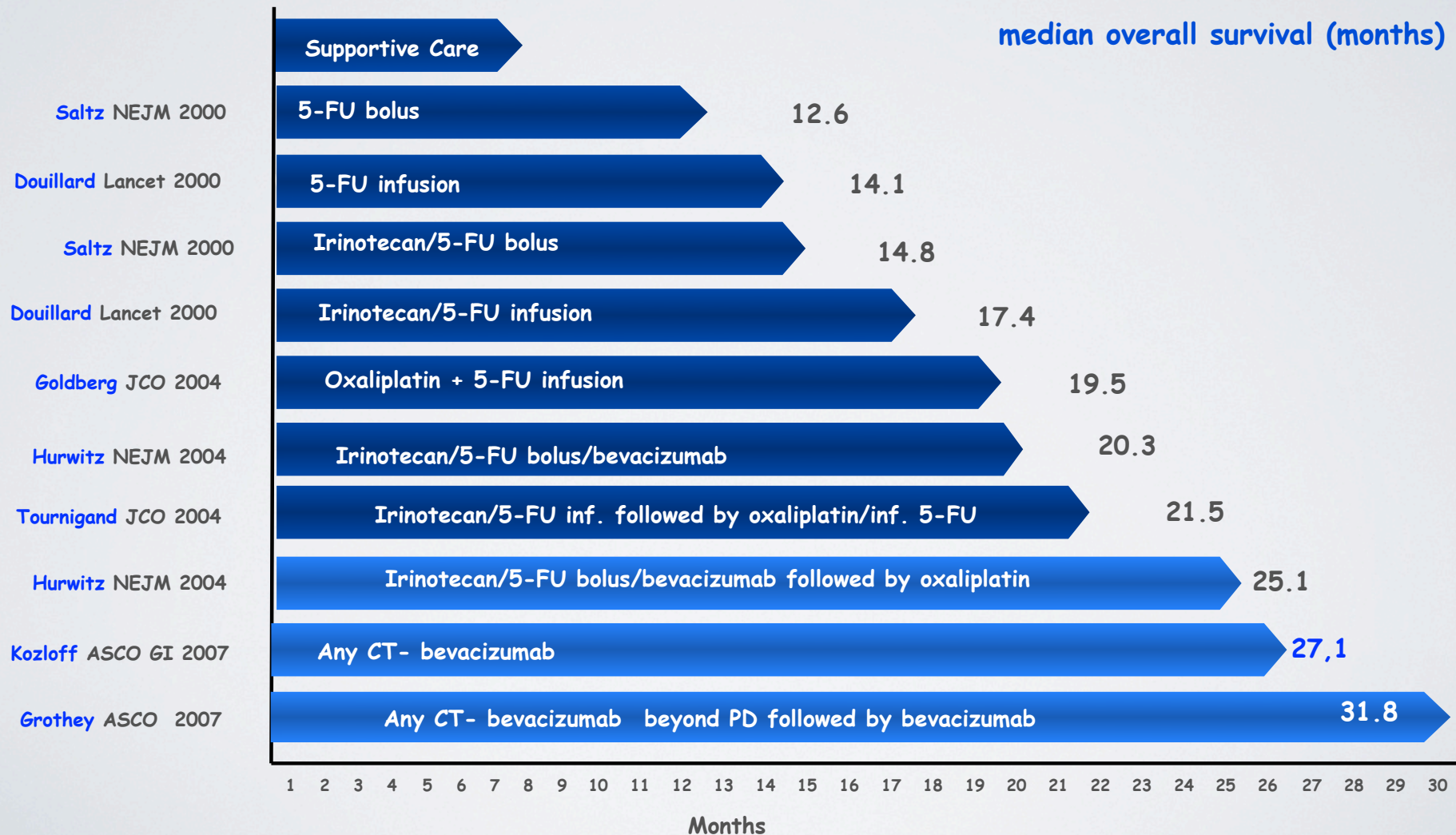
（奏効率 30%以下）

C群：症状緩和が期待できる

軟部組織腫瘍，頭頸部がん，食道がん，非小細胞肺がん，胃がん，膀胱がん，前立腺がん，膵がん，脳腫瘍，腎がん

（奏効率 30～60%）

進行性大腸がんに対する化学療法の進歩

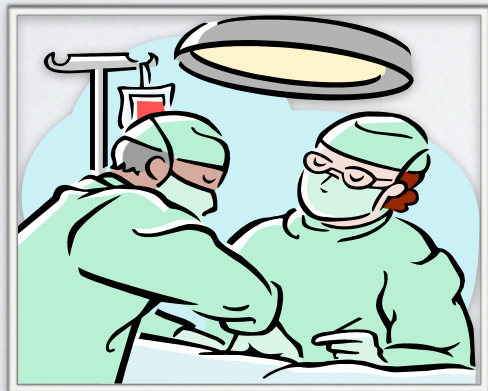


がん患者

がん病変



治療



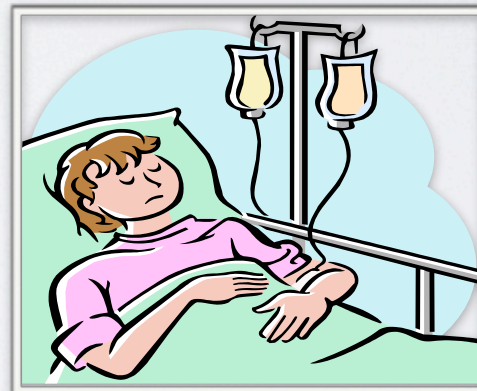
(外科的治療, 化学療法, 放射線療法)

苦痛

身体的苦痛
心理・精神的苦痛



症状の緩和



(緩和ケア)

緩和ケアとは？（2002年WHO）

命を脅かす疾患に関連した問題に直面する**患者**と**家族**の**QOL**を向上するための**アプローチ**であり、苦痛を回避し軽減するために早期診断や的確なアセスメント、**疼痛**や**身体的・精神的**そして**スピリチュアル**な問題に対する関わりを介して提供される。



患者



家族



QOL



痛み



身体



精神



スピリチュアル



Key word

チームアプローチ

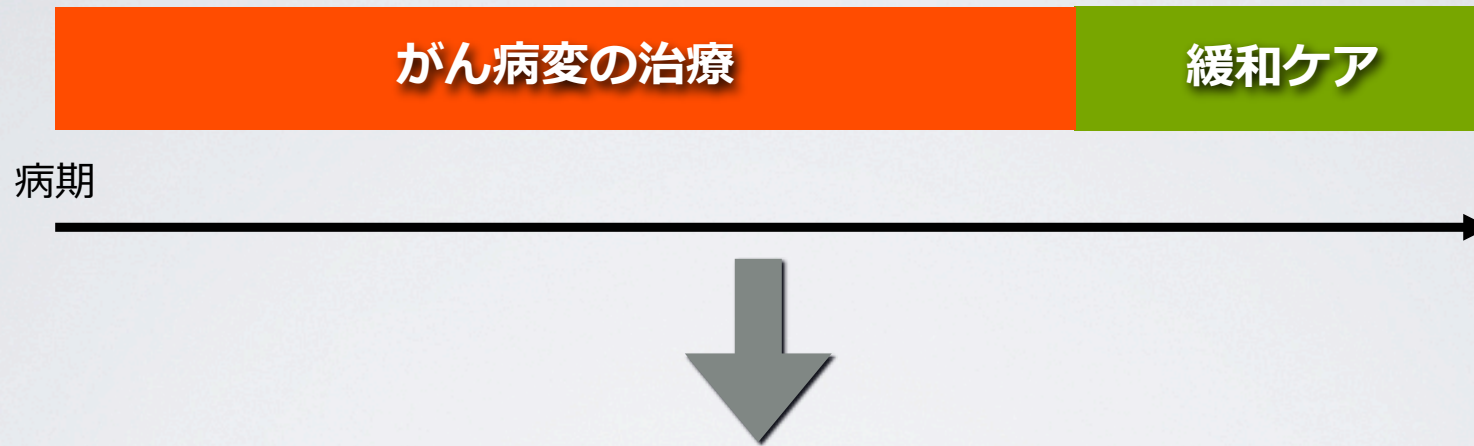
チーム医療

緩和ケア : Palliative care

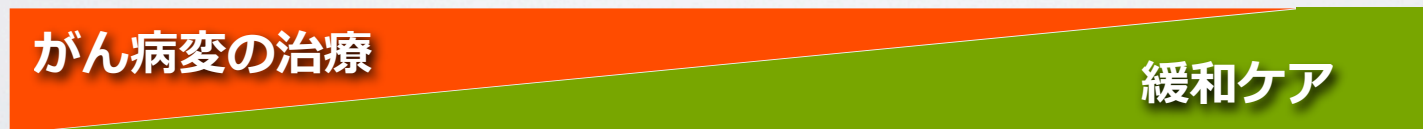
(姑息的 緩和的)



以前の考え方 ; 緩和ケア = 終末期ケア → 姑息的



最近の考え方 ; 緩和ケアに病期は関係ない → 緩和的
(治療と並行して行い得るもの)



頭頸部がん放射線治療による口内炎による痛み



卵巣がん放射線治療による放射線火傷による痛み

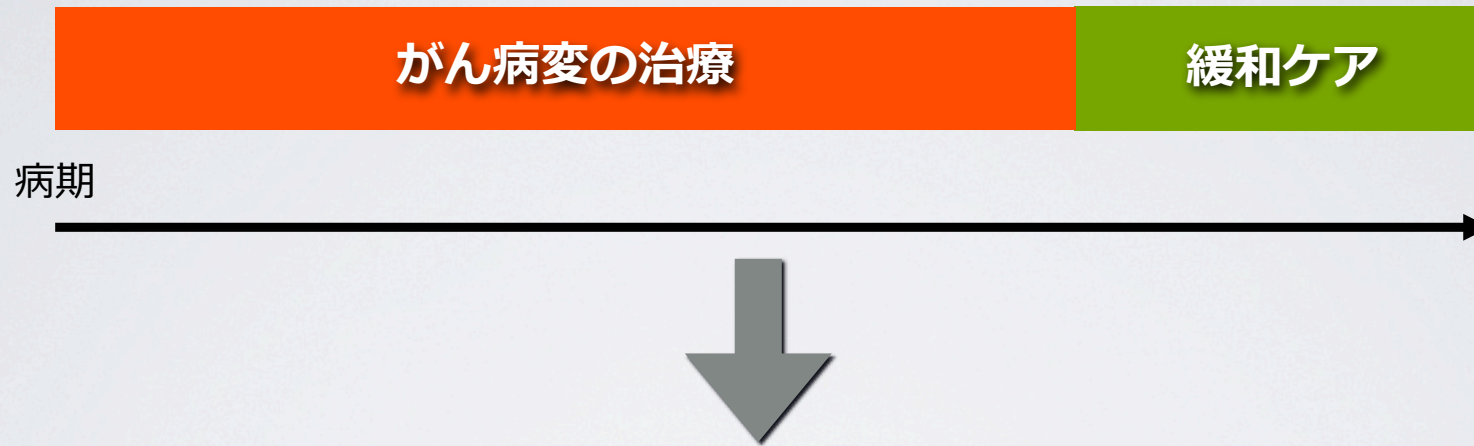


緩和ケア : Palliative care

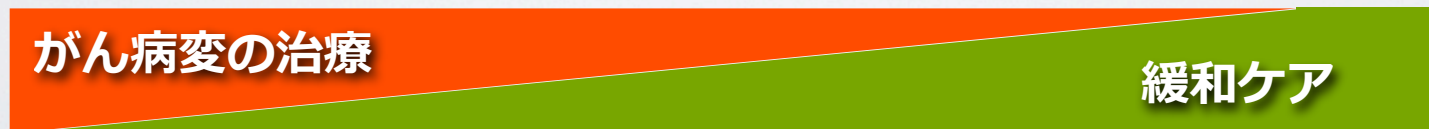
(姑息的 緩和的)



以前の考え方 ; 緩和ケア = 終末期ケア → 姑息的



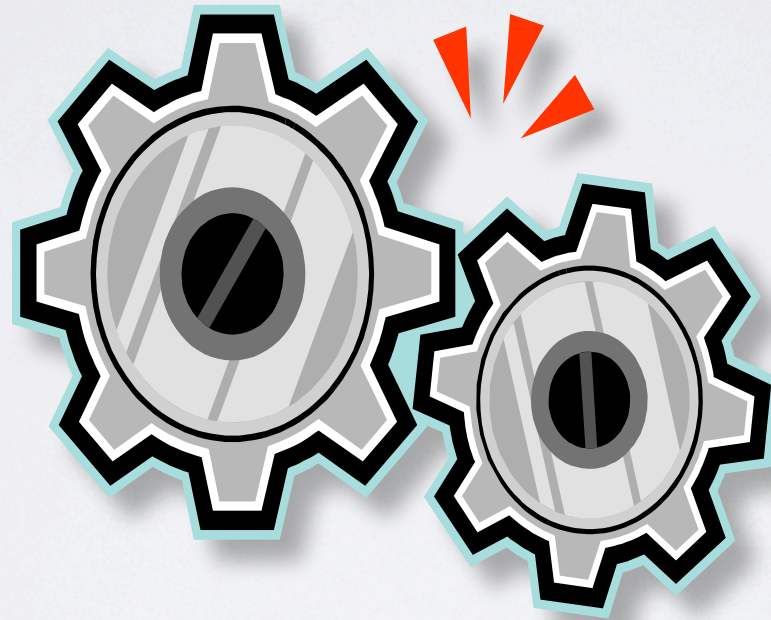
最近の考え方 ; 緩和ケアに病期は関係ない → 緩和的
(治療と並行して行い得るもの)



がん医療の両輪

治療

化学療法
外科的治療
放射線治療



症状コントロール
緩和医療

第3次対がん10か年総合戦略（2004年～）

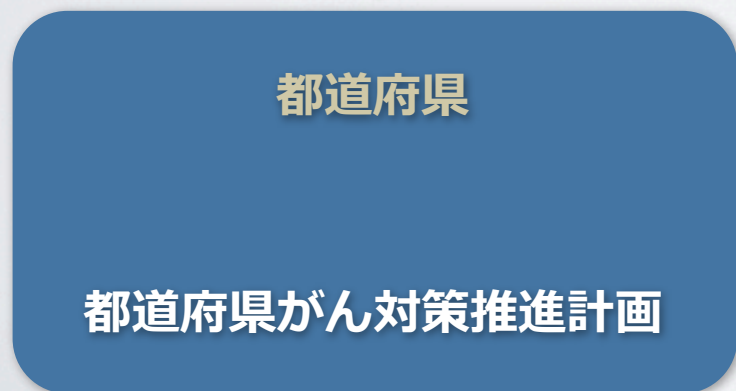
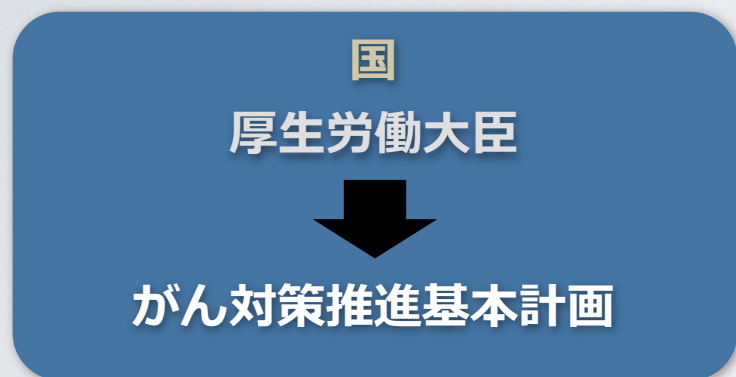


がん対策基本法（2007年度～）

がん対策推進基本計画（2007年度～）

がん対策基本法（2007年～）

がん対策を総合かつ計画的に推進



がん予防および早期発見の推進

がん医療の均てん化と促進等

- 専門的な知識及び技能を有する医師，
その他の医療従事者の育成
- 医療機関の整備等
- がん患者の療養生活の質の維持向上
- がん医療に関する情報の収集提供，
体制の整備等

研究の推進等

がん医療の均てん化

日本どこでも
質の高いがん医療を受けることができる体制整備

化学療法，放射線療法，緩和医療



拠点医療施設の整備

がん診療連携拠点病院による医療機関整備

国立がんセンター中央病院・東病院

都道府県がん診療連携拠点病院



地域がん診療連携拠点病院

かかりつけ医






北海道がん対策推進計画（平成20～24年度）

全体目標

-  がんによる死亡者の減少（75歳未満のがん年齢調整死亡率の20%減少）
-  すべてのがん患者およびその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上

取り組むべき重点課題

-  医師等の育成
-  治療初期段階からの緩和ケアの実施
-  がん登録の推進

北海道でのがん医療に対する体制



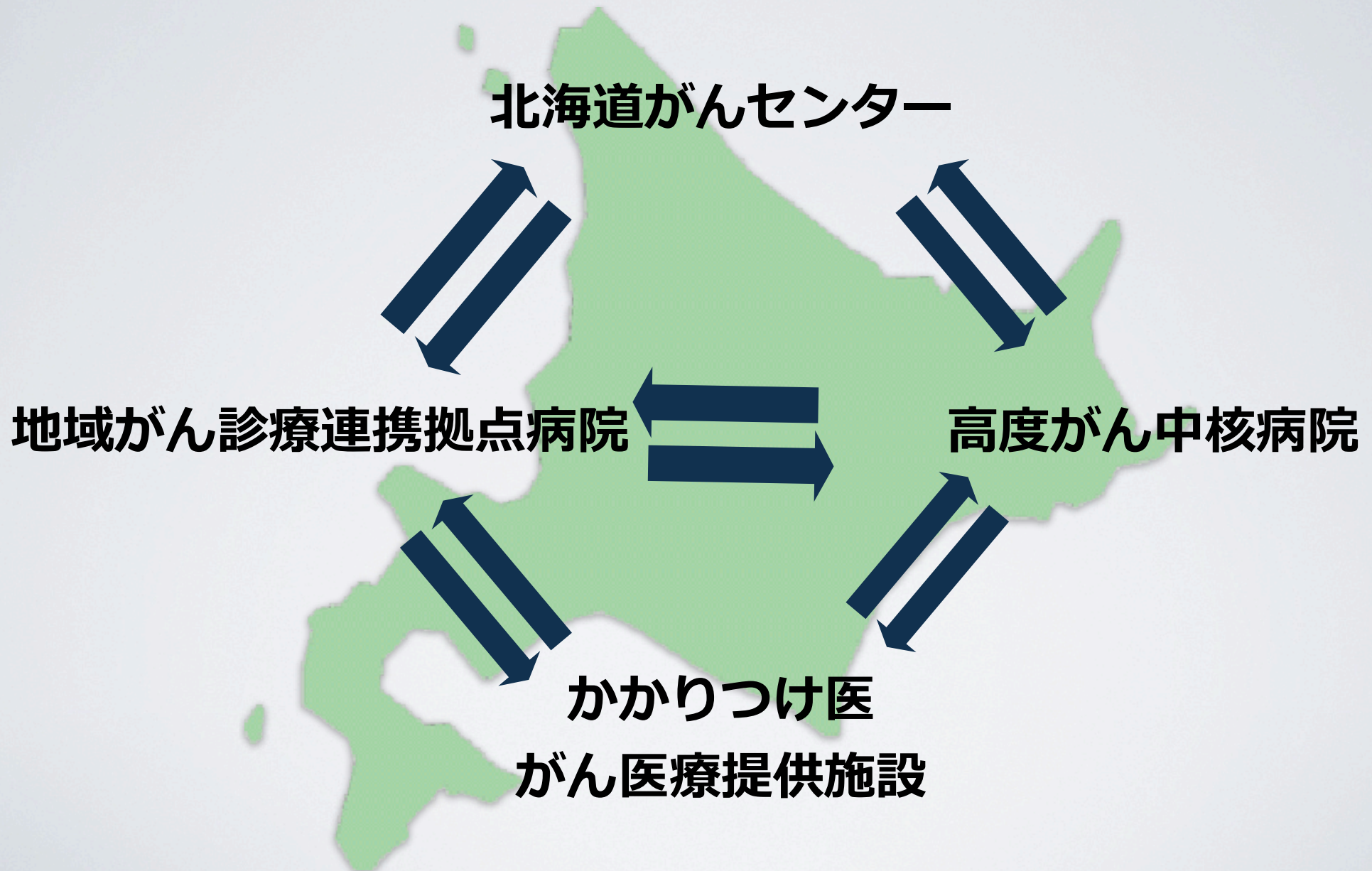
がん診療連携拠点病院（北海道）

札幌医科大学附属病院


- 北海道がんセンター
- 恵佑会札幌病院
- 市立札幌病院
- 札幌厚生病院
- KKR札幌医療センター
- 手稲溪仁会病院
- 北海道大学附属病院



北海道でのがん医療に対する体制



CONTENTS

 **わが国でのがん罹患率・死亡率の現状**

 **新しいがん診療体制の構築**

 **緩和ケア診療体制**

 **新しいがん医療教育体制**

緩和ケアの形態



施設緩和ケア

院内病棟型

院内独立型

完全独立型

ホスピス
緩和ケア病棟

緩和ケアチーム



在宅緩和ケア

ホスピス・緩和ケア病棟



緩和ケア病棟入院料

1日 37,800円



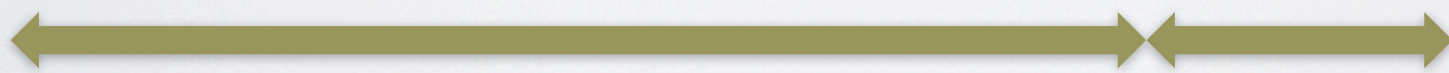
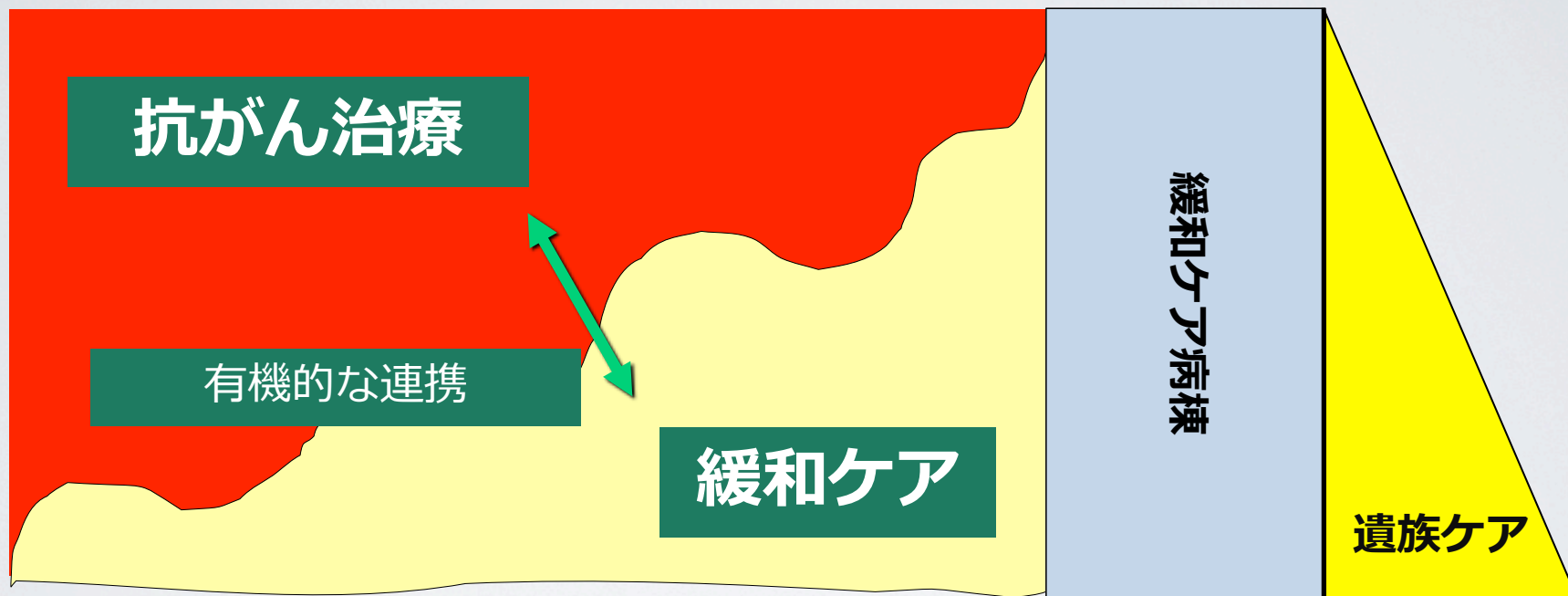
積極的な治療を行
うことが出来ない

がん死亡患者の10%未満しかベッド数がない

【最近の考え方】

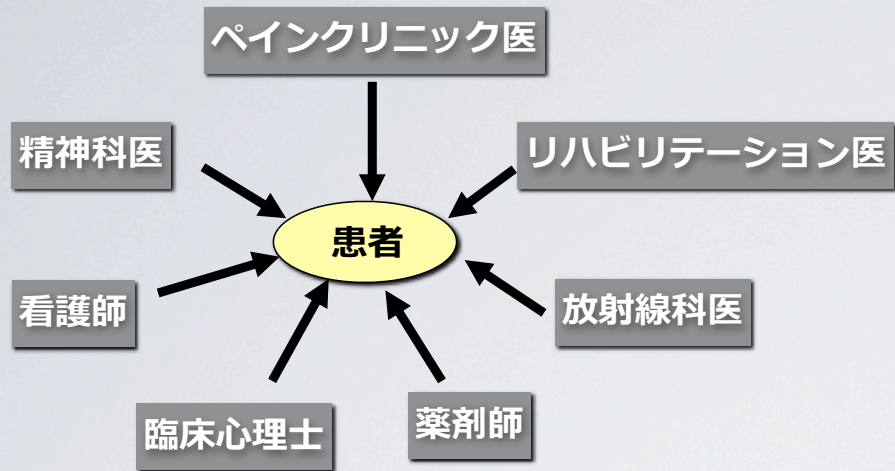
受診

死

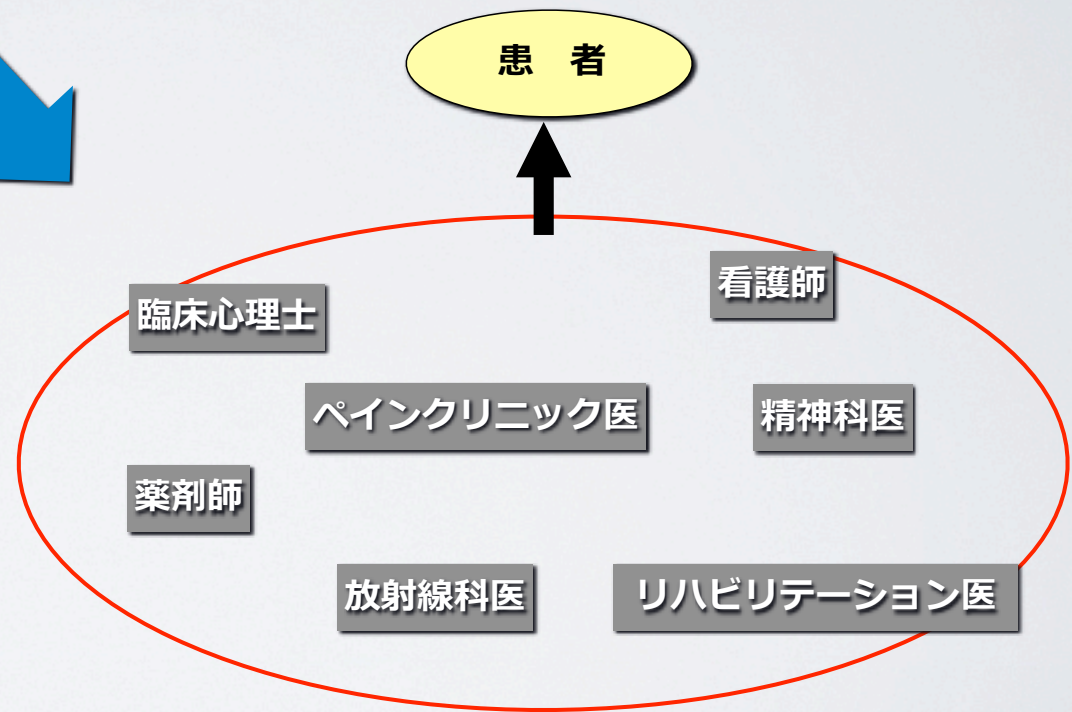


緩和ケアチーム

ホスピス
緩和ケア病棟



これまでの体制



緩和ケアチーム



札幌医科大学附属病院 緩和ケアチーム



- 麻酔科医 2名
- 精神科医 1名
- 臨床心理士 1名
- 専門看護師 1名
- 薬剤師 1名
- ソーシャルワーカー 1名

在宅緩和ケア 死亡場所構成比

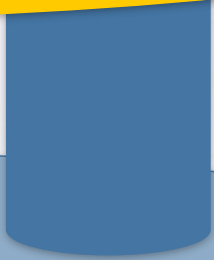
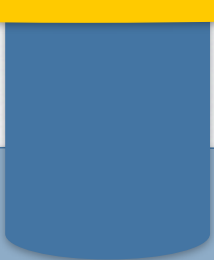
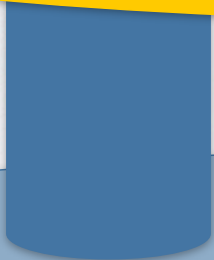
日本, アメリカ, オランダの比較

	病院	高齢者施設	自宅	がん患者の 病院死亡率
 日本	81%	3%	16%	93%
 アメリカ	41%	22%	31%	37%
 オランダ	35%	33%	31%	28%

がん診療連携
拠点病院

一般病院

ホスピス
緩和ケア病棟



保険調剤薬局





訪問介護事業所

訪問看護ステーション

在宅療養支援診療所

居宅介護支援事業所

CONTENTS

-  わが国でのがん罹患率・死亡率の現状
-  新しいがん診療体制の構築
-  緩和ケア診療体制
-  **新しいがん医療教育体制**

新しいがん医療教育体制

緩和ケア基本研修会

(がん医療に携わるすべての医師を対象)

がんプロフェッショナル養成プラン

(大学院教育, 専門教育)

厚生労働省指針準拠

札幌医科大学緩和ケア研修会 参加募集

がん診療に携わるすべての医師・研修医が緩和ケアについての基本的な知識を習得し、がん治療の初期段階から緩和ケアが提供されることを目的に、緩和ケアの基本的な知識等を習得するための研修会を開催いたします。

患者様・ご家族の苦痛が少しでも解放されるよう、皆様のご参加をお願いする次第です。

研修会主催責任者 札幌医科大学附属病院 院長 塚本 泰司

開催要項

期日：平成21年 **3月14日（土）、15日（日）**

会場：札幌医科大学 基礎医学研究棟 5階 共通会議室

受講費：無料 定員：30名

対象：札幌医科大学附属病院および北海道内の医師・研修医・コメディカル

本研修会のプログラムをすべて終了されますと、医師には厚生労働省からの「緩和ケア研修会修了証書」が交付されます。

申込先

▶ Eメールでお願いします ◀

Email: kanwa@sapmed.ac.jp

札幌医科大学寄附講座緩和医療学

研修会受付担当者 宛

締切：平成21年2月9日（月）

定員になり次第、締切させていただきます

主催：札幌医科大学附属病院

共催：日本緩和医療学会・札幌医科大学医師会・札幌医科大学がんプロフェッショナル養成プラン

〒060-0814 札幌市中央区南一条西五丁目5番1号 札幌医科大学附属病院
札幌医科大学 基礎医学研究棟 5階 共通会議室

新しいがん医療教育体制

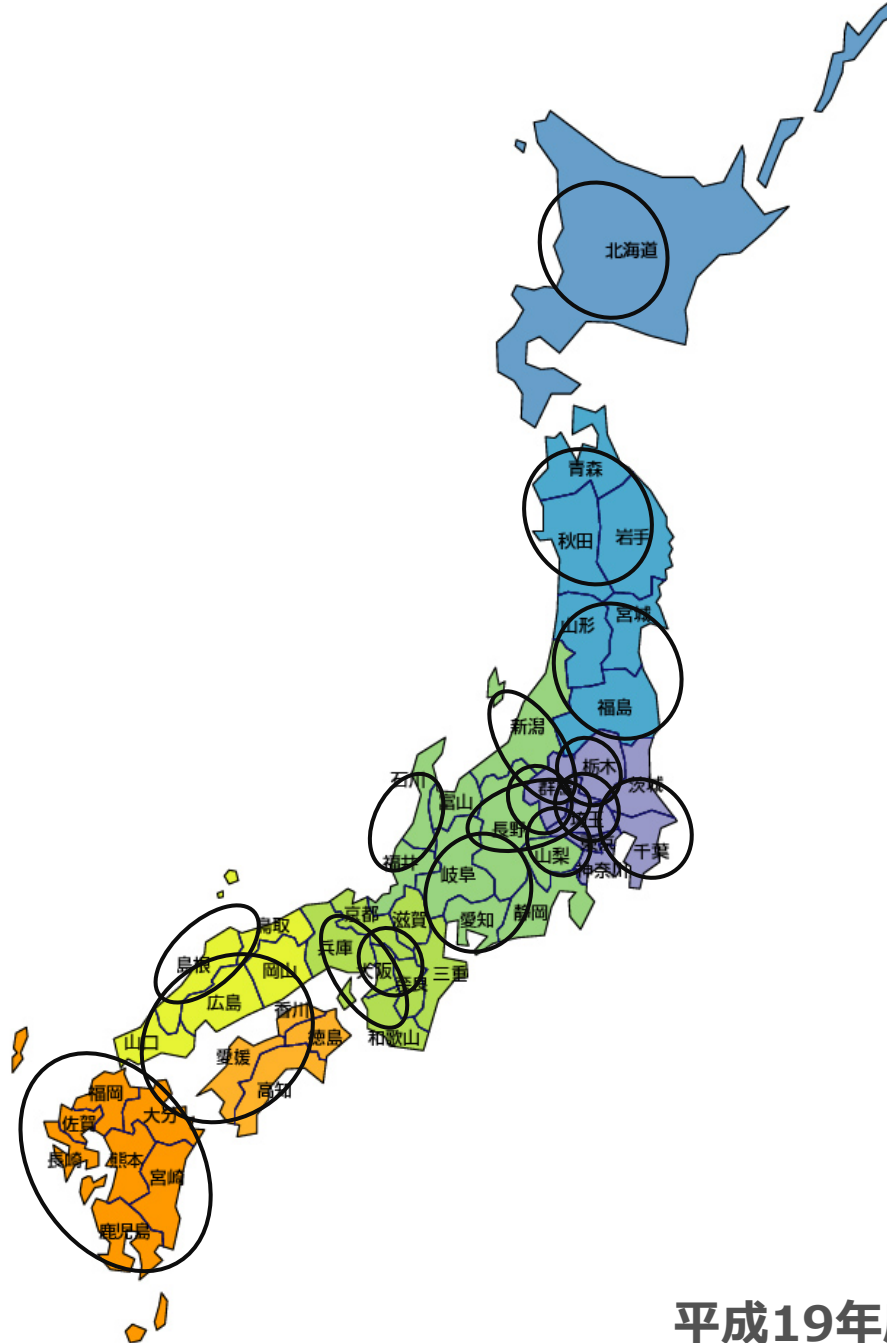
緩和ケア基本研修会

(がん医療に携わるすべての医師を対象)

がんプロフェッショナル養成プラン

(大学院教育, 専門教育)

がんプロフェッショナル養成プラン



がん医療の担い手となる高度な知識や技術を持つがん専門医師やがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成のため、**大学病院や地域がん診療連携拠点病院などの連携のもと**に行われる大学院教育プログラム

平成19年度 文部科学省より全国で18件のプランが選定

北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム

～大学，地域，病院の連携を生かしたがん専門医療人の育成を目指して～

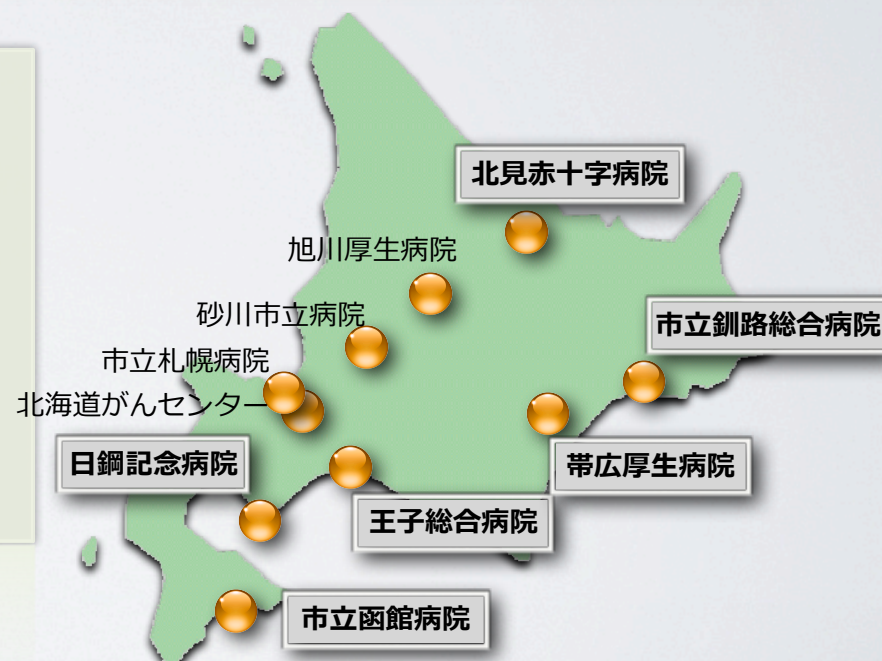
4大学の教育
研究機能を結集

大学病院と連携した
実践的な教育プログラム

全道を網羅する9つのがん診療
連携拠点病院と連携

北海道大学医学部
旭川医科大学
札幌医科大学
北海道医療大学

北海道大学附属病院
旭川医大附属病院
札幌医大附属病院



地域のがん医療の充実とオール北海道の総合力を生かすがん養成プログラム

札幌医科大学でのがん医療に対する 新しい体制

腫瘍診療センター

がんプロフェッショナル
養成プログラム

緩和医療学講座

腫瘍診療センター

化学療法管理室

放射線治療運営室

緩和ケア管理室

院内がん登録室

がん診療相談室

がん診療地域支援室

がん診療広報室

緩和ケアチーム
緩和ケア外来

緩和医療学講座（寄附講座）

- 📌 2008年～2012年までの時限講座
- 📌 札幌医大の最初の寄附講座（現在2つ存在）
- 📌 東北大学，大阪大学（寄附講座）に次いで3番目に開講



緩和ケアとは病の治療を目的とした治療に加えて精神的、心理的、社会的そして霊的な痛みそれぞれの専門家がチーム医療で取り組む新しい医療の形です。

札幌医科大学 寄付講座 緩和医療学

Sapporo Medical University Funded Project; Integrative Care Education & Practice

Sapporo Medical University
Funded Project;
Integrative Care Education & Practice



緩和ケアとは病の治療を目的とした治療に加えて精神的、心理的、社会的、そして霊的な痛みそれぞれの専門家がチーム医療で取り組む新しい医療の形です。

札幌医科大学 寄付講座 緩和医療学

緩和ケア・がん相談サロン

トップページ

緩和医療ってなに？

研修・セミナー

緩和ケアを
受けられる施設

業績・実績

リンク



寄付講座について
札幌医科大学 寄付講座
緩和医療学の果たす役割



教授からのメッセージ
緩和医療学講座担当
麻酔科学講座 教授 山藤 道明



緩和医療ってなに？
治療を目的とした
医療ではなく...



スタッフ紹介
緩和ケアチームスタッフの紹介



相談サロンのご案内



患者さま・ご家族へ



遺族のみなさまへ



子どもたちとご両親へ
お子さんへどう伝えるか、
子どもたちへのメッセージ

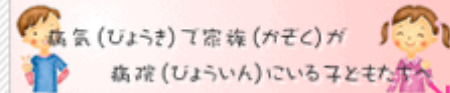
文字サイズの変更

緩和ケア活動日記

~緩和医療学教室からのお知らせ~

グリーフ（喪失感）












~喪失体験によりもたらされる
精神的、社会的、身体的反応~



サロンで保管している図書一覧

緩和医療学講座

構成メンバー

	教授（兼任）	山蔭	道明	麻醉科学講座
	准教授（兼任）	山内	正憲	麻醉科学講座
	講師（兼任）	渡邊	昭彦	麻醉科学講座
	特任講師	岩本	喜久子	
	助教（兼任）	吉永	敏弘	精神神経科学講座
	特任助教	水口	亜紀	麻醉科学講座
	特任助教	米田	舞	臨床心理士
	精神保健福祉士	福田	三奈子	
	看護師（研究員）	工藤	悦子	
	理学療法士	佐藤	昭紀	
	教室秘書	宮永	知加	

患者・家族サロン



患者さま・ご家族

緩和ケア・がん相談サロン



場所: 札幌医科大学 保健医療学部棟1F

緩和医療学教室

時間: 平日9時～17時まで

(時間外は相談に応じます)

内容: 緩和ケア, 各種がん情報についてなど

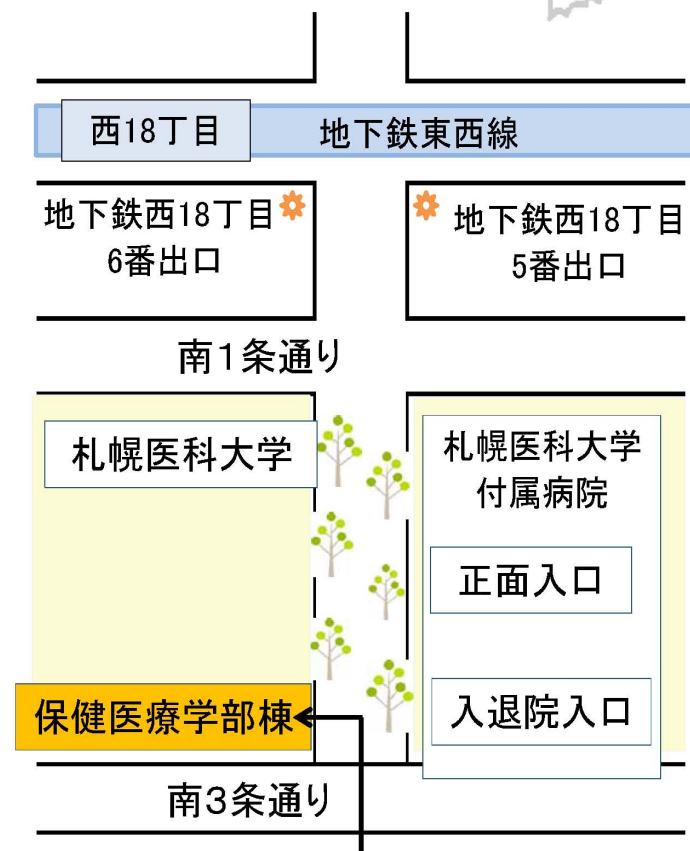
教室スタッフが対応いたします

電話: 011-633-8010(外線直通)

ホームページ: <http://web.sapmed.ac.jp/kanwa>

☆利用料, 相談料は一切かかりません☆

お気軽にお立ち寄りください!



入退院入口から、
まっすぐ街路樹を突き抜けたところにある入口
からお入りください

札幌医科大学での緩和医療

学生教育

緩和医療学 8講
学生実習

腫瘍診療センター

緩和ケア管理室
緩和ケアチーム

がんプロフェSSIONAL
養成プログラム

インテンシブコース
緩和医療専門医養成コース

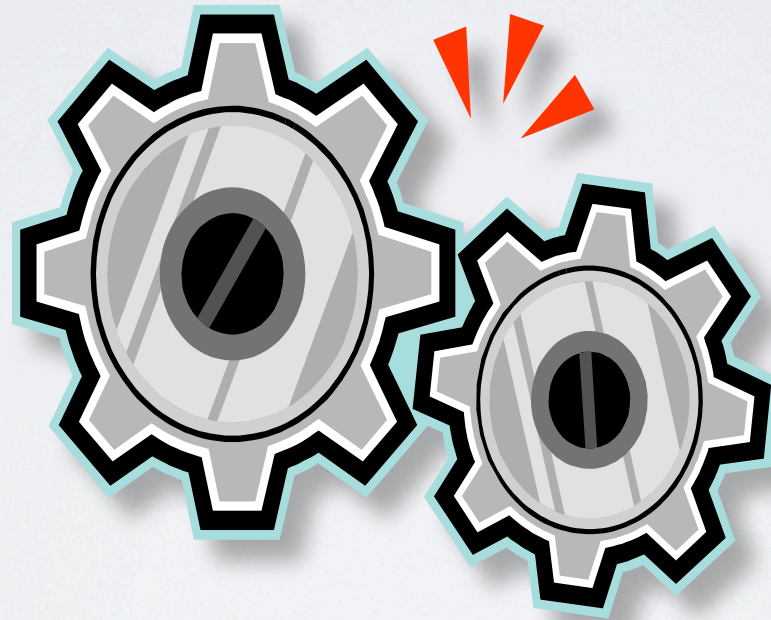
緩和医療学講座

寄附講座

がん医療の両輪

治療

化学療法
外科的治療
放射線治療



症状コントロール
緩和医療